

論 文 要 旨

氏 名	伊藤 香恋
タイトル (日英併記)	研修歯科医が困難を乗り越える心理社会的プロセス The Psychosocial Process That Trainee Dentists Overcome Difficulties
論文の要旨 (日本語で記載)	
<p>【背景・目的】レジリエンスとは、困難に直面し心理的にネガティブな状態に陥った時に、自己を立て直す能力であり、社会生活を営む上で必要とされている。臨床研修を通して、困難に直面することの多い研修歯科医の心情の変化を明らかにすることは、質の良い、効果的な指導に有益と思われる。板家らは、研修歯科医が主体的に診療に参加するようになる成長プロセスを明らかにしてきた。しかしながら、研修歯科医が臨床研修中の困難をどのようにして乗り越えているのかについては未だ明らかにされていない。本研究は、研修歯科医が臨床研修中の困難な状況から心理的回復に至るプロセスや、その中でレジリエンスがいかんして発揮されるのかについて明らかにすることを目的とした。</p> <p>【方法】研修歯科医 9 名に対して「臨床研修中の困難を乗り越えた過程」に関する半構造化インタビューを行い、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチにより分析した。なお、本研究は九州歯科大学研究倫理委員会の承認を受け実施した。</p> <p>【結果】研修歯科医の感情がネガティブなものからポジティブなものへと変化した過程には、大別して「他者との関わり」「内面的な強み」「主体的実行」の 3 要素が寄与していた。研修歯科医は困難に立ち向かう中で、他者との関わりに支えられながら、内面的な強みを発揮し、それを高めながら主体的に解決策を実行していた。</p> <p>【考察】上級医が「他者との関わり」「内面的な強み」「主体的実行」の 3 要素を、研修歯科医のレジリエンスを引き出す要素であると認識することで、研修歯科医の心理的負担を理解し、自信獲得に向けてサポートするための手掛かりとして活用でき、更に、研修歯科医自身が認識することは、自身の心身健康保持に有用である可能性が示唆された。</p>	